

# 八王子市青少年健全育成基本方針

## 家庭・学校・地域の連携のもと 健全な「はちおうじっ子」を育てよう



次代を担う青少年が意欲や自信を持って健やかに成長し、自立した心豊かな社会人になることは、市民すべての願いです。本市の青少年健全育成の目指すところは、青少年が様々な人とかかわりながら、豊かな人間性や、判断力、健全な心と体を獲得し、自ら力強く生きるとともに、新たな時代を拓く力をつけていくことにあります。そのためには、基礎となる家庭での教育の充実と、それを支える地域ぐるみでのつながりを育む環境づくりが必要です。八王子に暮らす大人一人ひとりが青少年を育成する担い手です。子どもたちのために、それぞれが持ちうる力によって、心を通わせ理解しあえる豊かな地域社会を構築していくことが大切です。

八王子市では青少年の健全育成を推進していくために、家庭・学校・地域、そして、市及び関係行政機関の役割とそれぞれの責任ある行動の基本となる方針を掲げました。ともに手を携え、これらの方針を実現していくことで、意欲あふれる健やかな「はちおうじっ子」を育成していきます。

### 家庭の役割 子どもの健やかな成長の基本

- 親から子へ伝えよう、思いやり・感謝の気持ちの大切さ
- おはようから始まる基本的な生活習慣と家族で作ろう、みんなのきまり
- 地域に目を向け、親子で一緒にやってみよう

### 学校の役割 家庭・地域とともに、生きる力を育む教育

- 学ぶ意欲や豊かな心を育む教育
- 健やかな心と体を育む体験活動の充実
- 地域とつながる学校づくり

### 地域の役割 一人ひとりの力を持ちより、高める地域の子育て力

- 地域の大人が手本となって続けていこう、あいさつ・声かけ
- 青少年が活躍できる地域づくり
- 人とひととのつながりで広げていこう、地域の安全・安心

### 市・関係行政機関の役割 連携とサポート体制の充実

- 家庭・地域・学校をつなぐコーディネート機能の充実
- 青少年健全育成活動の支援
- 人材育成支援と情報提供の充実

#### 平成 29 年度 八王子市青少年健全育成推進区域

八王子市青少年健全育成推進区域は、全市の青少年健全育成のモデル地区です。平成 29 年度は櫛田地区に決定しました。推進区域では、「青少年健全育成標語募集」や「花いっぱい運動」、「ふれあい櫛田祭」などを実施し、地域住民への健全育成の啓発等を積極的に進めていきます。

調査・審議 八王子市青少年問題協議会  
発行 八王子市  
事務局 八王子市子ども家庭部児童青少年課  
(Tel 042-620-7435 Fax 042-627-7776)

## みんなでつないでいこう 思いやりの心

八王子は、豊かな自然や輝かしい歴史、伝統・文化に育まれた由緒あるまちです。平安時代の西行法師が歌に詠んだと言われる「浅川」や、修験道の霊場として信仰され、今では登山客世界一を誇る「高尾山」。150 年を超える歴史、伝統を伝える「車人形」や、「祭囃子」。そして、文明開化の夜明けとなった横浜開港をきっかけに世界と日本をつなぐ大きな役割を果たした「絹の道」。まさに、八王子の今があるのは「古」より地域の発展のために先人たちが積み重ねてきた「知恵」と新たな時代を切りひらく「勇気」のおかげに他なりません。



市制 100 周年記念事業 子ども絵画コンテスト 市長賞 横山第一小学校（受賞当時 6 年生） 千賀香凛さん

そしてそこには、未来をしっかりと見つめる確かな目と未来に生きる子どもたちの健やかな成長を願う「思いやり」の心もあったことでしょう。

八王子市は今年、市制 100 周年を迎えます。昨年、記念事業として市内小中学生を対象に開催した「子ども絵画コンテスト」では、**4,963** 点もの応募がありました。子どもたちが描く、夢や希望を込めた八王子の風景や未来、大切な家族とのつながり。絵画やコメントに込められた熱く率直な願いに、多くの人々が子どもたちの「感性」の素晴らしさや「未来を切り拓く力強さ」を感じ、心を打たれました。

今年度は、作文を 4 月から募集します。テーマは、『私が思う「20 年後の八王子」～その夢に向けて、私ができること・大切にしたいこと～』。未来の主演である「はちおうじっ子」たちの「未来の自分・八王子」への考えを新たな時代を迎える八王子のまちづくりに活かしていきます。



現代社会においても見失うことなく大切にしていきたい「思いやり」。市では、この「思いやり」こそが子どもたちの「いじめ」をなくす基本と考え、平成 26 年度からその大切さを子どもたちへしっかりと伝えていく取組を家庭・学校・地域と協力しながらすすめています。

「地域の宝である子どもたちが子どもらしさを発揮しながら、夢や希望を持ち健やかに育ってほしい」という市民の願いは、いかなる時代であっても変わりません。過去・現在・未来

へと世代を越えて紡がれてきた「思いやりの心」の大切さを親や地域の大人たちから子どもたちへ伝え、その輪を広げていきましょう。



みどり～

はちおうじ

全国都市緑化  
はちおうじフェア  
公式 PR キャラクター



# 1. 大丈夫！親が後押し、子どものチャレンジ

「上手くいかなかったら恥ずかしいな」、「どうせ自分にはできない…」誰しもにこうした経験はあるのではないのでしょうか。子どもは経験が少ない分、こうした思いを抱きやすいものですが、最近の子どもたちはその傾向が少し強まっているように感じます。その原因の1つとして、「頑張っても報われない、やるだけ無駄…」といった無力感が漂う大人社会の影響があるのかもしれない。



子どもは本来、成長していく力として経験したことがないことへの「好奇心」や「意欲」を持っています。「やってみたい、知りたい」という気持ちは、子どもを夢中にさせ「挑戦心」を育み、心と体を発達させていきます。こうした無邪気さ、好奇心旺盛、一生懸命といった「子どもらしさ」は、いつの時代も変わらない子どもの特権・魅力であり、大人の顔をほころばせる力があります。子どもたちは「子どもらしさ」を存分に発揮させながら、自分のまわりの世界を楽しみ知識を広げていきます。そして、ときに悔しい思いをすることで**チャレンジ**を繰り返し、**達成する喜び**を得ていきます。



そこで、まずは家庭で子どもたちの「できない」不安や悔しさを「できる」喜びに変えていく環境を作っていくことが大切です。例えば、「ずいぶん練習頑張ってるね」、「よく気が付くね。手伝ってくれて助かった。ありがとう」と直接声をかけてみましょう。子どもたちの行動を認め、後押しすることで我が子を思いやる気持ちや愛情が伝わります。そして、子どものやる気と自信を引き出すことにもつながっていきます。

子どもの**できる**が増えれば、次は**こうしよう、こうしたい!**につながります。我が子が**チャレンジ**しやり遂げた表情は、親にとっても嬉しいもの。我が子の「できた!」に目を留め、一緒に喜びを分かち合いましょう。

## ○親同士の会話から見える我が子の姿を大切に○

家ではだらしがない、返事すらしがないなど感じる我が子に、忙しさからつい先走って「ちゃんと片付けなさい」、「聞いてるの!」と注意ばかりしてしまうのはよくあることです。いくつになっても子育てに心配はつきものですが、親同士で話すことで「〇〇くんはしっかりしてるね」と我が子の意外な姿を知ることや、「もう、うちの子も脱いだら脱ぎっぱなしで…」と他の家庭も悩みは同じなのだと思えることもあります。ときにはざっくばらんに。親同士の会話を大切にしていきたいでしょう。



## つながり、ひろがる 思いやりの心

**陶鑛小学校**は平成20年度より地域運営学校となり、保護者・地域の人たちの願いを受けて「進んで学び、粘り強く自己を高める子供を育てる学校づくり」を目標に定め学校運営を進めています。その一環で、家庭の目標として積極的に取り組んでいるのが「家庭で育む学習環境づくり～TOYO ACTION 5」。「今日、一番楽しかったこと」を家庭で話すことなど5つの実践項目を学校運営協議会が策定しました。各家庭からは「どのように子どもたちに声をかければ良いか模索中」などの声があがり、協議会では課題を検討し取組を発展させていこうという機運が高まっています。

また、**第三中学校**では、「いじめを許さない。させない」意識を持ち、思いやりの心を育てていくよう、生徒会が中心となり「いじめって!」という取組を行っています。この取組では、朝礼で、生徒自らが悪口を言う、返信を催促するなどSNSのトラブルに関する寸劇を行うとともに、生徒が策定したSNS学校ルールの再確認をしています。「寸劇のようなことがないか気を付けたい」「使用時間などルールを心がけたい」などの反響があり、友達との関係を見つめ直す、自分の行動を振り返るなど生徒一人ひとりに相手を思いやる気持ちが育まれ、その輪が広がっています。

# 2. みんなで話そう 本当に必要？スマホに向かうその時間

友達と一緒にいながらも無言でスマホに集中している子どもたち。まちなかやレストランで、子どもが話したそうにしている横でスマホばかりに目が向いている大人の姿。こうした光景は今では珍しくありません。



スマホは便利さゆえに、リアルタイムのつながりを求め、一方的な発信をしやすく、返信がないことへの不安やイライラを募らせやすい一面もあります。もし、直接集って会話をしていたら、多くの人は相手の気持ちを思いやり、発言に耳を傾け、一方的に自分の話ばかりはしないでしょう。このようにスマホは、今自分と一緒に過ごしている人や、やり取りの相手を思いやる気持ちをときに失わせていきます。

そこで、「今、自分は誰と一緒に過ごしているか」「今こそできること」など「今」に目を向け子どもたちと話してみませんか。こうした会話は、「家族との時間」や「友達それぞれが持つ時間」を大切に思う気持ちの育みにもつながっていくことでしょう。

もう一つ、子どもたちへのスマホの使いかたについて考えてほしいことがあります。調べ事や連絡を即時に行えるスマホには、様々な苦勞や面倒を軽減してくれる便利さがあります。しかし、子どもたちは、苦勞や面倒を**実際に経験**することで、知識や知恵を身に付け、相手を**思いやる心**を育てていきます。例えば、言いにくいことや謝るべきことを相手に直接しっかり伝えることも、子どもの頃からの経験の積み重ねによりできるようになるのではないのでしょうか。



子どもが**自分らしく自信を持って**成長できるよう、「スマホに向かうその時間」について皆で話し合ってみませんか。

## ○ Let's Talking! スマホの使い方 ○

- やるべきことがあるのに、ついスマホを見続けてしまうことはありませんか。
- 我が子が友達と一緒にいる時に、スマホばかり見ていたら、どう声をかけますか。
- 「これだけは守る」という我が家のルールはありますか。なぜ、そのルールにしましたか。



# 3. 未来につなごう! 「子どもを見守り・育てる」地域づくり

子どもたちをおおらかに包み育む地域。地域では学校や部活、家庭では見過ごされてしまうような子どもたちの長所に目を留め「褒めて、認めて、自信を育む」ことや、ときに地域の大切な子として「叱る」ことで人を思いやることの大切さを教えていくことができます。

八王子では青少年対策地区委員会などの地域の人たちにより、クリーン活動や防災訓練、スポーツ大会など親子で参加・活躍できる様々な行事が行われています。こうした行事において、子ども同士や様々な世代の人たちと一緒に汗を流すことは、子どもたちにとって、「力を合わせることの大切さ」や、「頼り頼られながら、みんなで成し遂げていけることへの喜び」につながっていくことでしょう。

まずは「参加」を促し、子どもたちに小さなことでも任せて、「自分も地域の一員」と子ども心に誇りに思えるような温かい経験を積み重ねさせていきたいと思います。

また、大人が冗談を交わしながら**助け合う**様子や、なかなか輪に入ってこれない子に「〇〇ちゃん、手を貸してくれる?」とさりげなく声を掛ける**思いやりある姿**。こうした様子は子どもにとって「将来、こうなりたい」という目標の一つにもなります。地元のお祭りや行事で目の当たりにした大人や年上の子の姿を「格好いいな」と憧れ、真似ていく。「学ぶ」の語源は「真似る」です。子どもたちが身近な人の姿から学び、自らやってみることで「達成感」を味わいながら、新たな世界を拓いていく意欲を育てていきたいと思います。

